

2018 年度

アメリカ研修報告書

実習先：セントラルミズーリ州立大学

実習期間：8月22日（水）～12月6日（木）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21017106
廣川義人

目次

1	研修先及び実習期間	3
2	研修先概要	3
3	研修目的	3
4	研修内容	3
4 - 1	研修のスケジュール	4
4 - 2	研修の詳細	4、5
5	当初目的・目標への達成度	5
6	反省・課題	6
	謝辞	6

付録

	日誌	6
--	----	---

1 研修先及び実習期間

研修先：セントラルミズーリ大学

研修期間：平成 30 年 8 月 22 日（水）～平成 30 年 12 月 6 日（木）

※帰国は 12 月 7 日（金）

2 研修先概要

(1)大学について

セントラルミズーリ州立大学（University of Central Missouri）はミズーリ州のウォーレンズバーグに位置する。カンザスシティから東に約 80 キロに離れたところにあり、人口は約 2 万である。1871 年に設立され、約 13000 人の学生が在籍しておりその内 2000 名以上が世界 57 カ国からの留学生である。広大なキャンパスには様々な施設があり、スポーツ、映画、ボウリングなどのアクティビティを楽しむことができる。アメリカ航空基地があることから、航空学が有名でパイロットを目指す学生もいる。

(2)大学で行われている教育について

セントラルミズーリ州立大学は IEP(Intensive English Program)と呼ばれるプログラムがあり、そのプログラムを受ける留学生は其中で 9 つのレベルに分類されている。そして、各々のレベルにあった授業を受けることによって大学で学ぶために必要な英語力を、少人数のクラスで身につけることができる。授業では、英語の読み、書き、文法、コミュニケーションを学ぶ。授業外の課外活動では IEP の生徒で行動することも多く、そこでは他国籍の生徒との、生活的な英語に触れあうことができる。留学生が一般学部の授業を受けるには、TOEFL で一定の点数を取得することが必要である。

3 研修目的

今回の留学の一つ目の目的は、総合的な英語力の向上である。常に英語に囲まれた環境に身を置くことによって話す、聞く、読む、書く、のすべての英語的感覚を養うことを目指し、それに伴ってその成果が数字として表れる TOEIC の点数の向上を目的とした。二つ目に、異文化の理解である。母国でない国に約四か月間滞在することによって日本人以外の多くの人々と交流し、生活に触れることを目的とした。

4 研修内容

以下から研修の内容を記述する。

4 - 1 研修のスケジュール

研修期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日（曜日）	内容
---	-------	----

8	22 (水)	到着、オリエンテーション
	23 (木) ~ 25 (土)	オリエンテーション
	27 (月)	前期授業開始
	7 (金)	アメリカンフットボール観戦
9	22 (土)	カンザスシティ訪問
	2 (火) ~ 3 (水)	期末テスト
10	10 (水)	後期授業開始
	18 (日) ~ 23 (金)	サンクスギビングブレイク
12	4 (火) ~ 5 (水)	期末テスト
	6 (木)	修了式
	7 (金)	帰国

4 - 2 研修の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

i) アメリカンフットボール

セントラルミズーリ州立大学の所有するアメリカンフットボール専用のスタジアムにおいて、アメリカンフットボール部の公式試合が行われた。試合の中での選手の熱気もさることながら、応援にもそれに勝るとも劣らない気迫を感じ、アメリカならではの雰囲気を感じることができた。

ii) カンザスシティ訪問

アメリカでは、大統領になった人物の図書館（記念館）が建てられる。カンザスシティにはトルーマン元大統領の図書館が建っている。IEPの生徒でそこを訪れた。そこには、トルーマン元大統領が任期を務めた当時の資料などが保存されていた。また、夕食にはカンザスシティにあるベトナム料理店でアジア料理を参加者全員で楽しんだ。

iii) サンクスギビングブレイク

アメリカには11月末に日本でいうところのお正月にあたる期間があり、家族で時間を共にすることが一般的である。そして、その期間にターキーなどの料理を食べることが風習の一つとして挙げられる。また、アメリカに家族を持たない留学生などはこの期間にアメリカの

各地へ旅行をする人もいる。

5 当初目的・目標への達成度

今回の研修の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i)総合的な英語力の向上

授業はもちろん、食堂などでの日常会話をネイティブと重ねることによって飛躍的に力を伸ばすことができた。また、母国語よりも英語が目に入る環境もあり、英文を読むスピードが上がり、それに伴って読解力も向上した。目的である TOEIC の点数という面では、留学前より 100 点以上も上がったことにより、達成したと言える・

ii) 異文化への理解

約三か月半、アメリカへ滞在したことにより、アメリカの食生活や祝日について触れ、関心を高めることができた。また、IEP の同じクラスの韓国人やサウジアラビア人の友人と授業中に文化について討論する機会があり、そこでも各国の文化について知識を増やすことができた。

6 反省・課題

この留学では非常に多くのことを学ぶことができた。しかし、授業中の発言や私生活での日本人以外との交流という面で積極性に欠けていたということが否めない。このことから、日本にいる今でも、人と積極的に交流するということを意識することによっていつ日本以外の国の人と会う機会があっても、臆せず交流していけるようになることが望ましい。また、アメリカで培った英語力もまだまだ完璧からは程遠いことから、日々精進する必要がある。

謝辞

今回の留学において、今回お世話になったセントラルミズーリ州立大学の先生方、特に Valerie 先生、Jill 先生本当にありがとうございました。その他携わっていただいた新潟国際情報大学の先生方、学務課の方々、本当にお世話になりましたことを感謝いたします。そして、本学から給付していただいた奨学金のおかげで一生に二度とない大変貴重な経験をさせてもらったことを心から感謝いたします。

付録：日誌

11月18日～23日
サンクスギビングブレイク
内容 ニューヨーク旅行

所感

サンクスギビングブレイクで賑わうニューヨークの街には様々な人種の人々があり、夜のタイムズスクエアは圧巻であった。さらに、エンパイアステートビルから見下す景色は目を見張るものがあった。

